

大正天皇が通られた由緒ある通り

行啓通

私たちは普段、何気なく道路の名前を使っていますが、その歴史や由来について考えることは、あまりないのではないのでしょうか。そこで、古くからの歴史のある通りの一つ、「行啓通」を紹介します。

南一四条を東西に走る道路は「行啓通」と呼ばれています。正式には、「南一四条中央線」といって、幌平橋の手前から西二〇丁目線までを指しますが、地元の人たちは西六丁目から国道二三〇号(石山通)までを「行啓通」と呼んでいるようです。

この名前は、明治十四年(一八八一年)に明治天皇が山鼻屯田兵の農作業の様子などをご覧になったときの経路を、四十四年(一九一一年)に当時皇太子であった大正天皇が行啓(皇族の外出の敬称)で通られたことに由来します。

当時、この通りは道幅が狭く、きちんと整備されていなかったため、屯田兵村の地主が道路敷地を寄

付して道幅を広げ、道筋を開拓し、大正天皇をお迎えしました。それ以来、この通りを行啓道路(後に行啓通)と呼ぶようになりました。

さらに大正十一年(一九二二年)には、

当時皇太子であった昭和天皇も行啓通を通られました。この道筋には大正九年(一九二〇年)ころから商店がで始め、十二年(一九二三年)に開通した市電山鼻線が行啓通を終点にしたため、通りは飛躍的に発展しました。今は、古くからの商店や新しいマンションなどが混在する通りとなっています。



昭和31年 夜の行啓通
(札幌市教育委員会文化資料室所蔵)